Let's challenge it in a farming and mountain village for one year

1年間の農山村チャレンジ

緑のふるさと協力隊

第31期 隊員募集要綱

MIDORINO FURUSATO KYOURYOKUTAI

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12 つくる責任 つかう責任

15 陸の豊かさも守ろう

主催：特定非営利活動法人 地球緑化センター
後援：総務省、文部科学省、農林水産省、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、(公財)日本離島センター、NHK、
日本青年団協議会、(公社) 国土緑化推進機構、全国水源の里連絡協議会、(特非)中山間地域フォーラム(順不同)

特定非営利活動法人
地球緑化センター

この地でここの人たちと
もっと暮らしたいと思いました

緑のふるさと協力隊は
若者が農山村で暮らしながら　地域のお手伝いをする
１年間のチャレンジ

地域を元気にしたい農山村と
自然の中で思いきり体を動かし夢中になれるものを求める若者たちの
思いをつなげてきました

一生懸命に動く隊員を
地域の人たちはあたたかく迎え入れ　優しく見守ってくれます
そこにあるのは　多くの人との出会い　つながり　たくさんの学び
地域の人たちと一緒になって　悩み　考え　動いているうちに
いつしか見えてくる
自分の「こう生きていきたい」という思い

「どんなふうに仕事をしようとも　大切なのは自分の気持ち・生きかた」と語る隊員たち
五感をフル稼働させ　生きること　働くことと向き合う時間が　そこにあります
あなたも「生きる」を実感してみませんか？

1 『緑のふるさと協力隊』をひも解く5つのキーワード

「1年間チャレンジ」

「緑のふるさと協力隊」として過ごす１年間は、地域の思いに耳を傾け、住民と共に動き、語り、汗を流す日々。活動に加えて、祭りに参加したり、地区清掃に協力したりと農山村らしい近所づきあいをしながら、住民の顔が見える地域密着型の活動と暮らしで地域にどっぷりつかります。なりわいや四季を通して農山村について深く知ることは、地域づくりの経験を積む絶好の機会といえるでしょう。

「838人・30年間」

詳しくは活動と暮らし
1年間のすごしかた

1994年にスタートした協力隊には、30年間で838人の若者が参加しました。若者に求められるのは思い切り動く情熱と、謙虚に学び、地域の応援者になろうという思い。地球緑化センターでは、これまでの活動の積み重ねを基に練られた研修や相談体制で、受入先自治体と協力しながら隊員をサポートしています。慣れない土地での活動や暮らしでは、時には悩んだり助けが必要なこともあるかもしれませんが、隊員の頑張る姿をたくさんの人が応援しています。

「月5.5万円の暮らし」

詳しくは 現地生活について
先輩の活動

協力隊は社会貢献活動という位置づけのため、給料はありません。その代わりに1年間暮らすための住居と水道光熱費が用意され、生活費として毎月5.5万円が支給されます。必要なものは何でも「買う」都会の生活とは違って、農山村の暮らしは「工夫する」知恵にあふれています。畑で野菜を作ったり、ご近所からおすそ分けが届いたり。自ら手を動かし、また助け合いに支えられながら、5.5万円だからこその心豊かな毎日が待っています。

「地域×あなた＝∞」

詳しくは
活動と暮らし

協力隊の活動は、農林業から観光、福祉や教育、地域行事や伝統文化まで、地域社会を支える多種多様なお手伝い。それらを通して生き方の手本となる人や、あこがれの家族像など、人生の糧となる多くの出会いがあります。一方、農山村にとっては、若者が地域に飛び込むことに意義があります。隊員一人の力は小さくても、その懸命な姿が励みとなり地域が動く原動力に。言葉や習慣などのギャップも刺激となり、隊員の感性が新しい風となるのです。

「約4割が定住」

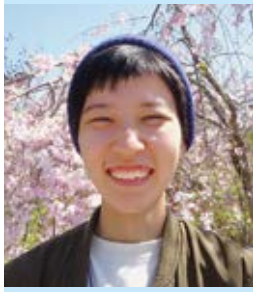
詳しくは
活動終了後の進路

隊員たちは活動終了後、農山村に定住するなどし、農林畜産業、行政、観光、福祉、教育、食、地域づくりなど様々な分野で活躍しています。人とのつながりを深めるなかで「どこかに就職する」というよりも「どこでどうやって生きるか」という視点を育み、生き方を選んでいきます。また、1年間暮らした地域は「第二のふるさと」。まるで地域がひとつの家族のような、あたたかくて、いつでもふらっと「帰れる」場所になるはずです。

2023年度（第30期）緑のふるさと協力隊

2 受入先と参加者

①岩手県一関市（藤沢地区）



遠藤 史佳
滋賀県・会社員・24

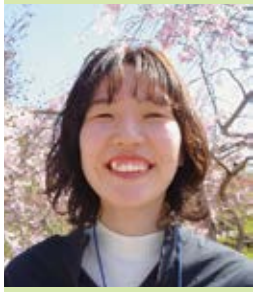
②山形県小国町

川添 翔大
愛知県・会社員・23

③群馬県上野村

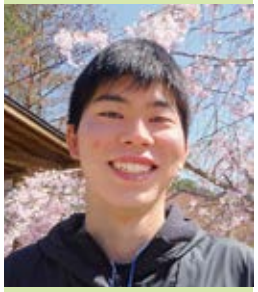
松浦 遼太
愛知県・会社員・35

④愛知県豊根村



益子 茜
神奈川県・会社員・26

⑤愛知県幸田町

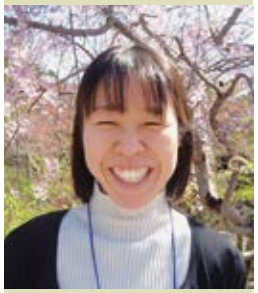


戸倉 季紀
東京都・大学院生・24

⑥石川県白山市（白峰地区）

坂東 裕子
愛知県・栄養教諭・28

⑦岡山県鏡野町



尾形 有紀
佐賀県・栄養職員・30

⑧岡山県鏡野町

為国 友梨
東京都・会社員・31

⑨高知県大川村

大城 将寿
沖縄県・大学生（休学）・20

⑩宮崎県日之影町

森 琴子
愛知県・大学生（休学）・21

※名前の下は参加前の住所・職業・年齢

◆第30期協力隊データ
派遣人数:10名（男性4名、女性6名）
〈社会人7名、学生3名（うち休学2名）〉
平均年齢:26.2歳
受入先自治体数:９市町村

※〈　〉の数字は受入回数

3 活動と暮らし

充実した１年にするため隊員・受入先（行政など）・地球緑化センターの３者がスクラムを組みそれぞれの役割を担っています。緑のふるさと協力隊には特別なスキルや資格は求められていません。地域の方と一緒になって動き、語り、暮らすこと。隊員の一生懸命に取り組む姿そのものが農山村の活力につながります。

農山村に行ってみたい若者

緑のふるさと協力隊

受入先で求められる
様々な活動に取り組みます。

地域を元気にしたい農山村

受入先
（市町村役場、または公的機関等）

地域住民に事業の理解と協力を要請したり、
隊員の活動内容や
日常生活のサポートをします。

地球緑化センター

隊員と受入先の連絡調整役として、
円滑な現地活動を年間を通して
サポートします。

両者を結ぶ相談窓口

農業・林業

農業…野菜・米・花卉・果樹栽培収穫／観光農園手入れ／農協(育苗センター苗運び)／米検査など
林業…森林組合(下草刈り・枝打ち・間伐など)／伐採木の片づけ／炭焼き／登山道・林道整備／竹林整備／木材加工／林産物生産(きのこ類・山菜)／台風被害記録

畜産・漁業

畜産…牛舎清掃整備／牧柵整備／和牛コンテスト／衛生検査／注射／放牧調査／イノブタ飼養／牛のセリ市／養鶏など
漁業…トビウオ漁／マグロ漁／海苔工場／アユ放流／養魚池整備／カキ漁など

食・特産品づくり

農産物加工…大豆加工(豆腐・きな粉)／味噌／ジャム／こんにゃく／山菜など
保存食・伝統食づくり…郷土料理レシピまとめ／五平餅／ちまき／しそ餅／凍み豆腐／凍み大根など
特産品開発…住民アンケート実施／地域の銘菓開発(梨蜜・ポン菓子・桜の花塩漬)

活動のすすめ方

①協力隊の受入窓口は、市役所、町村役場または公的機関等です。主に農林漁業や地域振興を担当する部署などが具体的な窓口です。そこの職員が「受入先担当者」として隊員の活動の調整や暮らしのサポートをします。

②受入先が隊員のための活動プログラムを用意しています。まずは用意された活動に一生懸命取り組んでください。

③だんだん活動や暮らしに慣れて余裕が持てるようになれば、活動の内容にも自分なりの希望が出てくるでしょう。その時は担当者とよく話し合い、自分なりの活動目標を組み立てていけば、実りある活動となるでしょう。

④隊員の活動は受入先が用意した活動だけではありません。多くの人と交流を深めるために自分の時間を活用して地域の行事や集落活動に積極的に参加しましょう。

⑤地球緑化センターも電話や必要に応じた訪問などでサポートします。問題が起きたら抱え込まず自分からも相談しましょう。

地域行事・観光・イベント

地域行事…山開き／餅つき／山の神祭り／七夕祭り／民俗芸能祭／夏祭りなど
伝統芸能…祭り／夜神楽／農村歌舞伎／和太鼓／よさこい／阿波踊りなど
観光…道の駅／キャンプ場／国民宿舎／観光案内所／体験施設／物産館／直売所／出張物産販売など
地域おこしイベント…山菜まつり／キャンドルナイト／マラソン大会／花火大会など

福祉・お年寄り

福祉施設…ふれあいサロン・デイサービス／社協作業所／リハビリセンター／保健センター／健康診断手伝い
自宅訪問…高齢者住宅巡回（聞き取り・配食サービス）／高齢者宅清掃（窓ふき・障子張り）
敬老会…シルバースポーツ大会など

教育・子ども

学校行事…読み聞かせ／清掃登山／ALT英語講師補助／プール清掃／運動会／学童保育／音楽会／図書館の本整理／自然学校指導補助／体験学習受入（村内・都市部）
山村留学施設…指導員補助／食事補助／子どもたちのお世話
公民館…公民館・児童館行事／文化祭／資料館・交流館受付対応／スポーツセンター

情報発信

ケーブルテレビ取材・番組キャスター／FMラジオ出演／ブログ・SNS更新／ホームページ更新／広報誌連載／自主制作新聞

集落活動

青年団／消防団／婦人会／自治会／子ども会／老人会／寺社清掃／側溝泥上げ／集落見回りなど

手しごと

木工細工／竹細工／わら細工／つる細工／正月飾り（しめ縄・門松）／紙すき／桐下駄／染め物など

生活維持

草刈り／雪かき／冬支度／クリーンアップイベント／獣害対策（鹿よけ網・イノシシ箱わな設置）／薪割りなど

役場事務手伝い

交通量調査／防火訓練／歳末夜間パトロール／転作確認／観光パンフ・マップ作成／水質調査／獣害調査／選挙運営手伝い／台風被害復旧作業など

4 1年間のすごしかた

協力隊の年間活動スケジュール（予定）

4月

事前研修（4月•6泊7日）

派遣される協力隊全員が集まり、講座やフィールドワークを通して、現地活動に向けての心構えを学びます。また派遣される自治体は違えども1年間を共にする心強い同期の仲間との絆を深めます。

5月

6月

7月

現地活動の開始

事前研修地から直接受入先へ向かいます。到着後、受入先担当者から活動と生活についてオリエンテーションを受けます。挨拶回りが終わったら、早速活動スタート。

受入先訪問

地球緑化センター事務局が受入先を訪問し、隊員や受入先担当者らと面談をします。

8月

9月

中間研修（9月•2泊3日）

活動や暮らしにもすっかり慣れてきた頃。前半の活動を振り返り、後半に向けて目標を再確認したり、気持ちを新たにする研修です。半年ぶりに同期に会い、刺激を受けることも。中間研修で得たヒントを持ち帰り後半の活動に活かしていきます。

10月

11月

12月

1月

進路相談

任期終了後の進路について、地球緑化センターや受入先が相談にのります。

2月

3月

総括研修•活動報告会（3月•3泊4日）

1年間の活動をまとめる研修です。報告書の作成とともに「活動報告会」を開催し、多くの方に活動の成果を報告します。

◇報告書の提出（当センターへ提出）

各月ごとに「活動レポート」、研修ごとに「報告書」を作成し提出します。

◇「ふるさと通信」の発行

年2回、隊員が持ち回りで、地域の様子を「ふるさと通信」として発行します。地元の人も気づかなかった地域の魅力や課題などを自分の言葉で伝えています。

活動するにあたっての心構え

1.地域の人たちの信頼を得る

まずは用意された活動に誠実に取り組み、地域から求められる役割を理解して、周囲の人たちとの間に信頼関係を築きましょう。ひとりの社会人としての自覚が求められます。

2.謙虚な学びの姿勢

活動の中で、未知の事実や考え方に出会うこともあるでしょう。そんな時、一方的に自分の考えを相手に押し付けるのではなく、謙虚な気持ちでそれらを受け入れ、学ぼうとする姿勢が大切です。

3.ルールを守る

活動は、受入窓口となる役所をはじめ地域の方々による目に見えない配慮や準備があって成り立ちます。そのため、あいさつや連絡、時間を守るなどのルールと共に、地域の伝統や慣例を尊重し、柔軟に対応・実践しましょう。

4.自分から動く

困難にぶつかったり、悩んだりしたときは、周りのせいにせず、まずは自分にできることを精一杯やってみる前向きな姿勢を持ちましょう。もちろん事務局も年間を通してサポートします。

5 現地生活について

参加者が負担するもの

①参加費　40,000円
②交通費
　●自宅→事前研修地　●総括研修地→自宅
③健康保険料、年金保険料
　※協力隊参加に伴い、年金保険や健康保険等社会保険の切り替えが生じる場合は各自で手続きを進めます（健康保険の扶養家族「遠隔地健康保険証」発行や、国民年金の納付猶予手続きなど）。その際、証明書が必要となる場合は地球緑化センターから「派遣証明書」が発行できます。必要な人は申し出てください。
④引越し費用（運送費）
⑤一時帰省など自己都合による費用

用意されているもの

①住居・生活備品
　隊員の住む場所、水道光熱費、基本的な生活備品（寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など）。
②生活費　月額55,000円
　当センターから毎月末、各自のゆうちょ銀行総合口座に振り込まれます。派遣までに口座開設の手続きをしてください。
③現地活動費
　活動に伴う移動手段（車、バイク）や交通費、活動に必要な道具類など
④研修の経費
　研修に参加するための交通費（事前研修地→受入先、受入先⇔中間研修地、受入先→総括研修地）及び宿泊費
⑤活動中の保険料（下表参照）

住居について

①隊員は予め決められた住居で生活します。
②1年間自炊して過ごすための基本的な生活備品（寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など）が用意されています。
　これまでの生活と比べ不便と感じるかもしれませんが、地域の方々から暮らしの知恵を学びながら、工夫をこらし、生活します。
③自炊することが原則です。住居を丁寧に使いながら、健康的で規則正しい生活を心がけます。

車両について

①隊員のための車が用意されています。到着後すぐに運転をすることになるので、不慣れな人は必ず運転の練習をしておいてください。
②万が一に備え、保険に加入していますが、事故の状況によっては修理代を隊員が負担する場合があります。
　※普通自動車運転免許取得必須

休日について

①受入先の規定に準じます。
②年1回（2泊3日まで）の帰省が認められています。
　ただし、家族に万が一のことがあった場合や就職試験などの場合は、特別休暇を取ることができます。
③受入先の同意が無い場合は、活動地を離れることができません。

保険について

当センターでは以下のような保険処置を講じていますが、現地ではくれぐれも事故が生じないよう常に心がけてください。

1.ボランティア保険（賠償責任保険・傷害保険）
①適用範囲:活動中に協力隊員が傷害を受けた場合、あるいは第三者の身体・財産に損害を与え、慰謝料・見舞金・賠償金を請求された場合
②補償期間:協力隊活動期間（研修中も含む）
③補償内容:右表の通り（参考:今年度版）

A：賠償責任保険

対物事故	1事故につき5億円（限度額）
対人事故	1事故につき5億円（限度額）

B：傷害保険（協力隊員自身の事故）

通　院	7,000円／1日（最大90日）
入　院	13,000円／1日（最大180日）
後遺障害	後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の100%～42%
死　亡	2,100万円

2.普通傷害保険
活動中以外の時間に何か起こった場合にもサポートできるよう、24時間補償タイプの傷害保険に加入します。
①適用範囲:24時間補償タイプ
②補償期間:協力隊活動期間（研修中も含む）

6 先輩の活動

第25期（2018年度）
群馬県高山村派遣　川添雄斗さんの場合

専門学校生 ▶ 協力隊

1年間の流れ

4月
挨拶まわり、登山ボランティア、道の駅イベント、農作業（種まき等）
農作業は天気との相談であり、農家さんは「今日できることはやっておきたい」という考えで作業していた。

5月
まんじゅう作り、農作業（田植え、トマト、バジル、花卉等）、そば祭り
そば祭りでは、お客さんの呼び込みを担当。1,200 食を販売し、生産者の方も喜んでいてよかった!

6月
田んぼアート、農作業（ビーツ、こんにゃく、花卉）、放課後クラブ
田んぼアートは、何かをみんなで作る大変さと楽しさ、そして完成した時の達成感を感じた。

7月
卓球大会、農作業（枝豆、ブルーベリー）、養蜂場整備、地域の祭り
地域のお祭りの初めから終わりまで（準備、本番、片付け）のお手伝いをしてみて、運営する大変さが分かった。

8月
道の駅イベント、地域の祭り、こんにゃく品評会、短期プログラム「若葉のふるさと協力隊」
農事研究会でこんにゃく品評会に参加。色んな農家さんのこんにゃくを見ると、土地や育て方で違いがあり勉強になった。

9月
農作業（枝豆、こんにゃく、柿）、郡民祭（体育祭）、老人ホーム、中間研修
中間研修で同期と今までの活動を共有。今後についても話し合い、とてもいい刺激になった。1 年間の活動も折り返し、頑張ろう!

10月
サツマイモ・小豆・こんにゃく収穫、村民運動会、尻高人形劇、そば祭り
100 年以上の歴史がある尻高人形の公演を通して、受け継がれてきたものの重みや、偉大さが伝わってきた。

11月
地域の祭り、伝統芸能教室、ブロック交流会、料理教室、ビーツ・にんじん収穫
ビーツやにんじんの収穫、袋詰め作業をした。関東近郊から多くの注文があり、お手伝いすることがたくさんあった。

12月
高崎市で物販、道路清掃、そば打ち、村内向け新聞作成、高齢者支援
活動や感じたことをまとめた、村内新聞を作成!声をかけてもらえる機会が増え、たくさんの人と会話することができた。

1月
餅つき、乾燥芋、大豆・小豆選別、どんどん焼き、梅の剪定
高山村の正月の行事に参加。各地区のどんどん焼きをまわり、やぐらやまゆ玉作りを体験した。

2月
卓球大会、薪割り、味噌作り、地域の祭り、生涯学習大会、親子料理教室
生涯学習大会で活動報告。人前で話すことは得意ではなかったが、「良かったよ」、「感動した」と言ってもらうことができ、よかった!

3月
挨拶まわり、バレーボール大会、道の駅、送別会
挨拶まわりでたくさんの話をした。ここでの経験をどう活かすかが、村の人への恩返しにつながる。今後も何かしらの形で関わっていきたい。

ある月のスケジュール（7月）

1日	卓球大会に参加
2日	枝豆農家で袋詰め
3日	養蜂農家で柵の撤去
4日	前村長さんのお話を聞きに行く
5日	噴気孔の掃除
6日	草刈り
7日	休日／地域おこし協力隊の方と映画鑑賞
8日	休日／地区の草刈り
9日	農作業、野球の練習
10日	なごみ茶屋でお年寄りの方と交流
11日	ヘルシー教室でロックハート城へ
12日	農作業
13日	休日／草むしり、水泳教室見学
14日	祭り準備
15日	祭り本番
16日	祭り片付け
17日	ブルーベリー・きゅうり収穫
18日	枝豆の選別
19日	ブログ更新、水泳教室補助
20日	農作業
21日	休日
22日	野球大会、カラオケ
23日	ブルーベリー・エンドウ収穫
24日	お年寄りのお家へお手伝い
25日	草刈り
26日	水泳教室補助
27日	水泳教室補助
28日	北向観音で護摩
29日	休日
30日	高崎市での物産展手伝い
31日	水泳教室補助

ある日のスケジュール

5:30	起床	家の周りをランニング!! 朝日が気持ちいい
8:00	役場に挨拶	今日の活動先を報告。今日も頑張ります！
8:30	農家訪問	こんにゃく玉植えの作業。畑が広いな～
10:00	休憩	太陽の下でお茶しながら楽しくおしゃべり
12:00	昼食	しっかり食べて、しっかり昼寝
13:00	作業再開	後半も頑張るぞ！
15:00	休憩	中腰での作業は大変…　腰が痛くて伸ばせません笑
17:00	作業終了	植え終えた畑を見ると達成感があります
18:00	温泉	毎日、村の温泉で疲れを癒しています。極楽～
19:00	夕食	訪問した農家さんの家でご馳走になることも！
22:00	帰宅	自由時間。レポートを書いたり、明日の準備
23:00	就寝	ぐっすり寝て明日も頑張るぞ！

休日に取り組んだこと

家に一人でいるのがもったいない、もっと多くの村の人と繋がって色々なことを知りたいと思ったので、子どもたちを家に招待してワイワイ遊んだり、季節ごとの村の写真を撮ってブログにあげたり、車で出かけてみてすれ違った方に話しかけて、お茶を一緒に飲みながら様々な話をしました。

第25期（2018年度）
高知県大川村派遣　濵田 栞さんの場合

会社員 ▶ 協力隊

1年間の流れ

4月
挨拶まわり、芝桜祭り、草木染め、水稲育苗、農作業（ピーマン）
村外から来る方も多く、村の人にとっては若い人も珍しくない印象を受けた。ご年配の方もとても元気！

5月
お茶摘み、野地峰登山、植樹祭、鹿の解体、ソフトボール大会、居酒屋イベント
熱い戦いが繰り広げられるソフトボール大会。色んな方に会えて交流でき、仲が深まった！

6月
道作り、お茶会、田植え、農作業（小麦・梅）、竹細工、牛舎手伝い
村では集落ごとに道の草刈り・手入れをすると知りすごいなあと思った。都会にはない光景だ。道作りの後に、お茶会を開いた。疲れているにもかかわらず、集落の方がお菓子を持ち寄って顔を出してくれた。

7月
竹炭、青年団活動、水源地手入れ、イベント運営（てっぺんラリー）
山の上流から水を引き、村の生活水としている。山へ行きパイプの掃除やタンクの様子を見に行った。自分たちで管理することの苦労を知れた。

8月
村民祭、短期プログラム「若葉のふるさと協力隊」、紅茶作り、バトミントン、俳句会
みんなで作り上げる夏のお祭り。400人の村人と見上げる花火はとてもキレイで心が温かくなった。

9月
農作業（ピーマン・ほうれん草・花卉）、牧草刈り、運動会準備、カラオケ会
周りを見回すと紅葉の風景にぐるりと囲まれていて、ついつい見とれてしまう毎日。

10月
森林組合、刺し子・編み物、大座礼山登山、稲刈り、大川黒牛出店イベント
おばあちゃんに教わり、編み物ができるようになった。後日一人で作ったものを持っていくと、喜んで飾ってくれた。

11月
謝肉祭、農作業（玉ねぎ・小豆）、登山道整備、神祭、産業文化祭、マラソン大会
400人の村に1,500人のお客さんがやってくる謝肉祭！村中が準備に大忙し。仕事もあるなか本当にすごいなあと思う。

12月
かりんとう作り、神社清掃、猪の解体、星空イベント、バレーボール大会
年末年始は一人で静かに過ごすのかなと思いきや、たくさんの方が「ご飯においで」と声をかけてくれた。予想外でとても嬉しかった!

1月
井野川フットパス、木星会、初会、俳句会、喫茶イベント、草刈り
喫茶イベントを自分で企画。70人ほどの人が訪れてくれた。色んな方に助けてもらいながら運営できた、感謝。

2月
謝肉祭たれ作り、お達者会、読み聞かせ、居酒屋イベント、農作業（花卉）
カゴ編みが上手なおじいちゃんに遭遇。もっと早くお会いして教わりたかったなあ!

3月
活動報告会、喫茶イベント、グラウンドゴルフ、お達者会、挨拶まわり
報告会はたくさんの人が足を運んでくださり、笑って聞いてくれた。1年間頑張りきれてよかった!

ある月のスケジュール（5月）

1日	休日／村内を散歩 夜は村民の方とBBQ
2日	ふるさと祭りの準備
3日	ふるさと祭りの運営
4日	道の駅のお手伝い
5日	野地峰 登山
6日	休日
7日	お茶の加工
8日	イベント準備
9日	小・中学生とお茶摘み
10日	小・中学生とお茶加工
11日	ジャガイモ畑のお手伝い
12日	おばあちゃんと草木染め
13日	お茶摘みイベントのお手伝い
14日	「若葉のふるさと協力隊」の書類作成
15日	フットパス研修／田んぼ整備
16日	子どもたちに絵本の読み聞かせ
17日	花卉農家　出荷作業のお手伝い
18日	植樹祭イベントの運営
19日	植樹祭イベントの運営
20日	「はちきん地鶏」PRの出店イベント
21日	休日／もらった筍を料理！
22日	産業部会 農家さんの集まりに参加
23日	草木染めのイベント準備
24日	休日
25日	休日／家庭菜園の準備
26日	野地峰 登山
27日	草木染め体験イベント
28日	休日
29日	紙すき・ソフトボール大会
30日	お達者会に参加
31日	草刈り機の講習会・鹿の解体

ある日のスケジュール

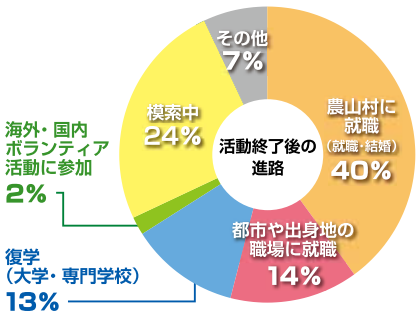
6:30	起床	毎朝、窓から外の景色をちらり。雲海が出ていることも！
8:00	自宅出発	車で役場へ向かいます
8:30	役場に顔出し	村の方、担当者の方に挨拶
9:00	絵本読み聞かせ	子どもたちの反応にワクワクドキドキ！
11:00	お達者会参加	おじいちゃんおばあちゃん、近隣の方が集まる会です
12:00	みんなでご飯	みんなで食べるご飯は美味しい！
13:00	お達者会	体操をしたり、ゲームをしたり。元気な方がたくさん！
16:00	イベント打合せ	当日の動きや必要なもの、意見を出し合います
17:15	帰宅	夕日がきれい。今日もがんばったなあ
18:00	夕食・自由時間	自分の畑に水をやったり、頂いたお野菜を料理したり
20:00	ソフトボール大会	スポーツは自然と人との距離も縮まる！楽しい！
22:00	帰宅	満点の星空！レポート忘れないうちに書こう…
23:30	就寝	お布団にダイブ！よく眠れそう

活動後に取り組んだこと

活動終わりに会った人に「今日の夜ご飯食べにきいや!」と声をかけてもらって、お邪魔することもしばしば!晩御飯を作らないで済むことが多かったです（笑）
バレーボールやバトミントンなどサークル活動に遊びに行ったりもしました。

7 活動終了後の進路

活動終了後、約４割の隊員が定住します。進路について多くの隊員が語るのは、活動の経験から「生きる・働く」将来像が具体的になったということ。いくつかの仕事を組み合わせて暮らしを営んだり、地域づくり活動をステップアップさせて独立・起業したりと、新しい働き方、生き方に挑戦しています。また活動終了時は「模索中」でも、数か月後には都市や農山村で進路を見つける人がほとんどです。地域との信頼関係やつながり、経験が自分らしい選択を後押ししてくれます。



1994年度(第1期)～2022年度（第29期）/828名/3月活動終了時調査

農山村への定住者 約40.0%

活動終了後、こんな仕事・進路をえらんでいます

農業（百姓、農業法人、農家レストラン）、森林組合、漁業、地域づくりコーディネーター、地域おこし協力隊、集落支援員、手仕事・職人（竹細工、茅葺き、革製品作家、木工）、大工、行政（県職員、市町村職員、外交官）、観光協会、社会福祉協議会、ＮＰＯ法人、教職（小学校、高校、大学）、塾講師、研究者、企業、新聞社、出版社、カメラマン、道の駅等観光施設、国立公園管理事務所、介護福祉、障碍者福祉施設、図書館、市議会議員など

01 山木 博文さん
（22期 宮崎県日之影町派遣）

大学院生 ▶ 協力隊 ▶ わら細工職人

写真中央

©川しまゆうこ

きっかけは？

自然が好きで自然に携わる仕事をしたいと漠然と考えながらも、進みたい道は不明瞭なまま、薄く靄がかかったような状態で就職活動を進めていました。ただ自然豊かな場所に行きたいという単純な思いもあり、そこで暮らす人々はどんなことを思いながら、そしてどんな仕事をしながら日々を送っているのか見てみたいと思い、参加を決めました。

協力隊を経験して感じたことは？

多くの方々に声を掛けていただき、文字通り町中を走り回りました。家族経営の小さな農家、自然農法を実践しようとする人、移住し職人として活躍する人…。そこには自分の知らない多種多様な人と仕事が溢れていました。そして皆深く熱い思いを持って仕事に向き合っていました。今まで出会うことのなかった世代や職種の方々と密に接することで、自分の視野があまりに狭かったことを痛感したと同時に、自分が進みたい道はどこか、改めて考える機会をいただいたように思います。

いまどうしていますか？

わら細工職人の道を歩み始めて４年が経とうとしています。惹かれたのはその清々しさです。自分たちで育てたわらを使ってわら細工や注連縄（しめなわ）を作る。もちろん収穫したお米も美味しくいただく。わら細工は手に取っていただく皆さんの暮らしや思いに寄り添い、注連縄は地域の安全を守り、伝統を継いでいく。ものを作って、売って、自らの暮らしを繋いでいく。少し原始的で、時代遅れなところもありますが、純粋で誠実な仕事だと思っています。町の92%が森林（！）の自然豊かな場所で暮らしながら、奔走しつつも充実した日々を過ごしています。

02 髙山 紗季さん
（28期 愛知県豊根村派遣）

会社員 ▶ 協力隊 ▶ 地域おこし協力隊

きっかけは？
自分自身の成長のために転職しようと思い立ったものの、当時していた仕事以外に魅力を感じる仕事がなく、環境を180度変えて自分と向き合いながら、本当にやりたいことを見つける1年にしたいと思い参加しました。

協力隊を経験して感じたことは？
農業や林業が身近な存在になり、商品になるまでの過程を目の当たりにしました。お店に並ぶモノを選ぶのではなく、一からモノを作り出すことが当たり前に行われていました。モノが誰かの手によって作られていることは街で暮らしているとつい忘れてしまいます。そこに改めて気付かされたと同時に、この感覚を大切にしたいと思いました。

いまどうしていますか？
「豊根村に残りたいここで挑戦したい」という思いから、地域おこし協力隊になりました。豊根村の植物を活かした草木染めを取り入れて、服づくりをしています。1着の服が出来上がるまでには様々な人が関わっていますが、誰がどこでどのように作ったかという透明性を示した、土に還る環境に配慮した服を作ることが目標です。

03 三登 百合子さん
（23期 福島県鮫川村派遣）

大学休学 ▶ 協力隊 ▶ 復学、教員

きっかけは？
大学在学中、教育実習を終え、このまま教員になっていいのだろうか、もっと色々な経験をしたいなと思っていたところ、Facebookでみつけました。もともと農業や田舎に興味があり『これだ！やりたいことは今やろう！』と思い、休学して参加しました。

協力隊を経験して感じたことは？
村の方たちは損得を考えず「相手のために」を一番大切にしていることに感銘を受けました。振り返ると、村の方々の顔やエピソードなど人との関わりばかりが思い出されます。何か特別なことをしないと評価してもらえない、と最初は感じていましたが「いてくれるだけで嬉しいよ」とたくさん声をかけていただいたことで、自分のやってみたいことに何でも素直に取り組むことができました。

いまどうしていますか？
農業だけでなく、教員も人が生きていく上で必要不可欠なことだと思いました。任期が終わると、より強く教育に関わりたいと感じ、今は地元に戻り小学校の教員として働いています。見ず知らずの土地に飛び込んだ、協力隊としての経験を通して、子供たちに何でもチャレンジすることの楽しさを伝え、感じてもらえるよう自分なりに試行錯誤しています。

04 島﨑 鉄士さん
（21期 山口県下関市豊田町派遣）

大学生 ▶ 協力隊 ▶ 観光協会職員

写真右

きっかけは？
周りに合わせて就職活動をし、自分を良く見せようと誇張しすぎたため、本来の自分との間にギャップが生じました。「自分が本来やりたいことは何だろう」と思い、自分のやりたいことや可能性が見つかるのではないかと思い参加しました。

協力隊を経験して感じたことは？
どちらかというと私自身が地域の皆さんに励まされていたというのが本音です。今まで歳が一回り二回りも上の方たちと接する機会もなかったため刺激を受け、また町を盛り上げようとする熱い人たちにも感化されました。元々趣味であった写真や、ポスターなどのデザインにも興味を持ち、自分も町を盛り上げたいと思うようになりました。特にやりたいことが無かった私にとっては大きな変化だったと感じます。

いまどうしていますか？
豊田町観光協会の事務局として働いています。初心者同然ではありますが、あの時感じた思いを胸に、写真やデザインで豊田町のＰＲをしています。最近では映像でも色々とやっていきたいと思っています。時には思いもよらないことや、壁に当たることもありますが信念を曲げずに、自分のやりたいことを叶えてくれた地域の皆さんに感謝しながら豊田町を盛り上げていこうと奮闘しています。

※01.03.04:2020年インタビュー、02:2022年インタビュー

8 応募から派遣までの流れ

参加資格

①概ね18歳～40歳までの男女
②健康で、この事業に情熱と意欲を持って参加できる人
③参加期間を通じ、現住所を離れて活動できる人
④全期間参加できる人
⑤普通自動車運転免許を持っている人（MT推奨）
※持っていない人は、派遣される前までに必ず取得してください。
AT限定の方は、派遣先が限定されます。

活動期間

2024年4月4日（木）～2025年3月16日（日）
※事前・中間・総括研修含む

参加申込書提出

(1) 参加申込書記入

参加申込書記入の際には、以下の事項に留意のうえご記入ください。
①必ず本人が記入してください（ボールペン使用のこと）。
②休学して参加する学生及び20歳未満の場合は、保護者が所定の欄に署名捺印してください。
③顔写真は、胸から上の正面写真を貼付してください（スナップ写真は不可）。
④書類選考および面接選考では「応募動機」を一番重視します。自分の思いを率直に詳しくお書きください。

(2) 参加申込書の提出

応募締切：**2023年12月21日（木）**必着で地球緑化センターに送付してください。
※提出いただいた参加申込書は、当事業の運営のみに使用し返却は致しません。
※受入先が多くなった場合には、二次募集を行うことがあります。応募締切後は、地球緑化センター事務局へお問合せください。

書類選考

書類選考の結果は12月末までにお送りします。
選考通過者には以下の書類をお送りします。
①面接選考会の案内　②健康診断書用紙
③活動先及び活動内容一覧表　④活動先希望アンケート用紙

面接選考

東京（**2024年1月21日(日)**）にて面接選考会を開催します（会場までの交通費は自己負担）。
面接選考は、グループ面接と個人面接を予定しています。
※応募状況に応じて、中京もしくは関西方面でも実施する場合もあります。

[主な内容]
①応募の動機などについて詳しくお聞きします。
②現地活動への意志と意欲を確認します。
③あなたの特性、希望をいかして何ができるかをお聞きします。

[派遣先決定のポイント]
①本人と受入先の希望を考慮しながら、応募者の持ち味がいかされるように配慮して決定します。
②活動に集中し、異なる文化や歴史を体感してほしいとの思いから、原則として現住所や出身地に近い地域には派遣されません。※選考内容についてはお答えできませんので、予めご了承ください。

隊員決定
合意書の取り交わし

(1) 2024年2月中旬を目安に選考結果を通知します。面接選考を通過した人には、「緑のふるさと協力隊派遣に伴う合意書」をお送りします。
(2) 当センターと面接選考を通過した人との間で合意書を取り交わし、これによって「緑のふるさと協力隊」としての派遣が正式に決定します。ただし、事前研修中の健康状態などにより現地活動に耐えられないと判断される場合には、派遣中止になることもあります。

派遣に向けての準備
派遣

[引っ越しについて] 当センターより住居・生活備品等の詳細についてお知らせしますので、その案内に沿って準備を進めます。荷物の送付は2024年3月下旬頃です。
[事前研修について] 研修会場や内容については改めて連絡します。事前研修が終了した後、そのまま受入先へ向かいます。

9 Q&A

説明会等で寄せられる質問をいくつかまとめました。
なお、募集説明会は各地で開催予定です。詳しくは、ホームページをご覧ください。

Q1 参加するにあたって、専門的な技術や資格は必要ですか？

A1 P.13にある参加資格以外は必要ありません。まったく土に触れたことのない人や、ボランティア活動未経験の人も大勢参加されています。「農山村で1年間頑張ってみたい」という思いのある方なら誰でも大歓迎です。

Q2 月5.5万円で生活できるか不安です

A2 第30期までは月5万円でしたが、物価上昇を考慮して、第31期より生活費は月5.5万円としています。これまでに生活が維持できずに活動を辞めた例はありません。地域に“あるもの”を工夫して暮らすように努力したり、時おり地域の方からお米や野菜のおすそ分けを頂いたりなど、5.5万円の暮らしだからこそ生まれる交流が1年間を面白くします。

Q3 普段、車の運転をしていないのですが…

A3 協力隊に参加するために運転免許を取得した方、都会では運転の機会が少なく自信がないという方も多いです。着任すると担当者の方がオリエンテーションも兼ねて地域内を案内してくれますので、少しずつ道や運転に慣れていくことができるでしょう。

Q4 派遣先は選べますか？

A4 面接選考の前に受入先の資料を配布し、希望する派遣先を第3希望までお聞きします。必ずしも希望した自治体に派遣されるとは限りませんが、応募状況や受入先の特性などと合わせて、応募者の持ち味がいかされるよう総合的に判断して決定しています。

Q5 「地域おこし協力隊」との違いは何ですか？

A5 「地域おこし協力隊」は2009年に総務省によって制度化され、その際に「緑のふるさと協力隊」をモデルにしたと言われています。どちらも農山村の活性化を目指すものですが、活動形態や活動内容に違いがあります。また、「緑のふるさと協力隊」として築いた信頼関係をいかし、その後「地域おこし協力隊」として活躍するOBOGも増えています。

	緑のふるさと協力隊	地域おこし協力隊
活動形態（待遇）	仕事ではなく1年間の「地域貢献活動」 ※地球緑化センターが応募者と受入先のマッチングを行う ※生活費として5.5 万円／月が支給される（住居や活動車両、水道光熱費などは受入先が負担）	「仕事」として地域おこし活動に取り組む（1年更新、最長3年まで）。 ※地域おこし協力隊隊員、受入自治体の二者で雇用契約を結ぶ ※自治体により異なるが、多くの場合、臨時職員や嘱託職員という位置づけとなり、月16万円程度の給与が支払われる
活動内容	農林業から地域行事まで、地域社会の営みすべてに「幅広く」取り組む	自治体が定めた「ミッション」に取り組む

地球緑化センターとは

地球緑化センターは、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民ひとりひとりが自ら考え行動できるよう、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

若者の長期農山村貢献活動
「緑のふるさと協力隊」

児童・生徒への環境教育活動
「緑の学校」

緑、人を育む

国内森林ボランティア
「山と緑の協力隊」

中国での植林活動
「緑の親善大使」

多彩なニーズに応えます

1.企業・組合の社会貢献活動・研修などのコーディネート
2.大学のゼミやサークルなどグループ活動の支援
3.体験学習のプログラム提供・講師派遣
4.自治体、行政、他団体との連携など

情報を発信します

1.機関誌
「タマリスク」の発行
2.出版物の作成、貸出、頒布
3.ホームページ等による
情報提供

地球緑化センターの歩み

1993年 ― 団体発足。中国内モンゴルでの砂漠緑化事業がスタート
1994年 ― 緑のふるさと協力隊事業スタート。国内で初めて市町村自治体と連携を図った長期ボランティア活動を実施
1996年 ― 森林ボランティア「山と緑の協力隊」スタート(第1回は長野県赤沢自然休養林)。民間団体として初めて国有林で活動
1999年 ― 特定非営利活動法人格を取得
2000年 ― 朝日新聞社主催「第1回明日への環境賞 森林文化特別賞」受賞
2005年 ― 愛知万博「地球市民村」パビリオン出展
2006年 ― オーライ！ニッポン会議主催「第3回オーライ！ニッポン大賞」受賞
2007年 ― 緑のふるさと協力隊短期体験プログラム(若葉のふるさと協力隊)スタート
2008年 ― 日中環境緑化交流センター(中国河北省豊寧県)開所
2009年 ― 「田舎で働き隊！」事業(農林水産省)の事業実施主体に選定される
2010年 ― 『農山村再生・若者白書2010』(農文協)刊行
2015年 ― 森林ボランティア「山と緑の協力隊」第200回記念プログラムを開催(長野県赤沢自然休養林)
2023年 ― 設立30周年

緑で未来を育む活動を支えてください！

会員募集

1993年に設立された地球緑化センターは、会員の皆様一人ひとりの思いを大切にし、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け、今年で30年目を迎えます。本会の運営は、会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し、団体を応援してくださる方のご入会をお待ちしています。

入会金	(入会時のみ) 1,000円			
年会費	正会員 ★総会の議決権あり		賛助会員	
	個人会員	10,000円	個人会員	5,000円
	団体会員	50,000円	団体会員	20,000円

※変更手続き中

◇入会方法
入会希望の方は事務局までメールまたは電話でご連絡のうえ、以下の口座へご送金ください。
▶郵便振替　00130-2-761479
▶三菱UFJ銀行　八重洲通支店(普)1011076

◇正会員の特典
▶機関誌「タマリスク」無料送付
▶地球緑化センター主催プログラムに優先参加
または参加費の割引があります。

■クレジットカード寄付の受付を開始しました
「Syncable」の寄付システムを利用し、
クレジットカードでもご寄付いただけます。
https://syncable.biz/associate/gec/

公式ホームページ・SNSで最新情報紹介中！

http://www.n-gec.org/
QRコードからもアクセスできます

特定非営利活動法人
地球緑化センター
Green Earth Center

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-3 金谷ビル2階201
TEL.03-5542-0132　FAX.03-5542-0136　http://www.n-gec.org
YouTube　note　緑のふるさと協力隊　検索